

〈巻頭言〉

地域保健活動における評価の現状と課題

成木弘子

公衆衛生看護部部長

The Current Status and Issues in Evaluation of Community Health Care Services

Hiroko NARUKI

Department of Public Health Nursing, National Institute of Public Health

今日、我が国の国民の健康を取り巻く状況は、急速にそして大きく変化し、特に社会の基底の変化が著しいと言われています。このような社会の変化を踏まえ、健康課題に的確に対応するためには、効果や効率を視野にいたした専門職の専門性の発揮が強く求められます。

しかし、保健事業に限らず行政サービスに対しては、古くから厳しい科学的な評価の必要性が指摘されてきましたが、「前年度実績」を基にした事業計画の策定が行われることが少なくはありませんでした。評価が本格的に実施されるようになったのは、地域保健計画の立案がされるようになってからであり、住民要求に対して「最も効果的で効率的な保健事業」を計画策定し、実施した全ての保健事業について、厳しい科学的な評価が求められる様になった為です。その為の「根拠に基づく保健医療—Evidence based health care (EBHC)」には、「日常業務における調査・研究—Practice based research」が必須となっています。また、評価計画は活動の計画の段階から設定する必要がある、効果の測定を実施することも重要です。理論的には認識されている評価ですが、現場での課題も多く、評価が十分に実施されていないという声も未だに残っています。

そこで本特集では、地域保健活動に様々な立場から従事している専門職が実際の活動において評価をどのように実施しているのか、その現状と課題を整理した上で今後の展開方法を今一度整理をする機会としました。

まず、メタボリックシンドローム予防プログラムの評価の実際などを踏まえながら、保健活動における評価の現状と課題を考察していただき、評価の理論的な整理をしていただきました。その上で保健活動の実践領域として「栄養、歯科保健、公衆衛生看護、福祉」及び、地域保健分野における助産師活動を取り上げ各々における評価の実際と課題を論じてもらいました。また、国立保健医療科学院で実施している行政保健師に関連のある研修に関する評価の現状と課題も論じました。

本特集が、地域保健活動における評価の実践をより一層充実していく為に活用してくださることを期待しています。